

脊柱側弯検診

■ 検査方法 デジタルモアレ法（側弯症計測システム）※放射線を用いない検査法

- ・ 赤外線 3D センサを背部に当て、距離画像データをもとに体背面の隆起を画像としてデータ化します。背部のデジタルモアレ画像と実際の背部写真を同時に撮影します。

■ 検査場所

- ・ 着替え室、検査室として、それぞれご準備をお願いいたします。
- ・ 電源として 100V/15A のコンセント（通常の壁コンセント）をお借りいたします。

■ 名簿作成・受診確認等

- ・ 当協会にて受診者名簿を作成いたします。児童生徒の属性情報の提供をお願いいたします。
対象学年以外（次年度再検査・前年度未受診等）で受診の方もご提供ください。
* 事前に受診の意思確認をお願いいたします。

■ 検査ができない事例について

- ・ **ギプス装着時は検査できません。**その他に足のけが、痛み、麻痺等で直立、水平を保てない場合は検査できない場合があります。検診スタッフまでお知らせください。

■ 検査準備について

事前

- ・ **検診前の集団説明を実施しておりませんので、この手引きに記載している内容について事前にご指導くださいますようお願いいたします。**
- ・ 検診日は学校指定の体操着を着用してください。
- ・ 女子生徒の着替え場所については、目隠しのスクリーンをご準備いただく等のご配慮をお願いいたします。
- ・ 検査待機中に素肌に羽織るタオルについては、各自で準備をお願いいたします。

当日 着替え室での準備

- ・ 上半身は肌着・ブラジャーを外し、裸の上に体操着 1 枚を着用。下は、ハーフパンツになります。長ズボンの場合は、ズボンの裾を 2～3 回捲り上げます。
- ・ 靴下を脱ぎ、ポケットの中身を空にします。
- ・ 背中に髪がかからないように、肩にかかる髪の毛は束ねます。(後ろに束ねる、団子結び等)

■ 検査の流れ

- 1) 男女別・出席番号順に検査室への誘導をお願いいたします。
- 2) 検査室の入口前で靴を脱ぎ裸足で入室します。
- 3) 入室後、上半身裸になります。希望する生徒は裸の上にタオルを羽織ります。撮影場所入口前に出席番号順に並んで待機します。
- 4) 一人ずつ撮影場所に入ります。氏名確認を行いますので、検査員に名前をはっきりと教えてください。
- 5) 検査台の足型に合わせて背筋を伸ばして立ちます。
- 6) 検査員がパンツを腰骨（尾てい骨）の辺りまで下げます。
- 7) 立ち方や姿勢など検査員が微調整しますので、指示に従ってください。

* 検査時間の目安は 1 人 1 分程度です。撮影のみで検査は終了です。



■ 検査結果について

- 約1か月をめどに教育委員会を通じて、各学校へ通知いたします。
- 要精密検査者には紹介状を発行いたします。

結果判定のみかた

判定	結果	内容	対応
0	特記所見なし		
1a	次年度再検査	日常、学校・家庭において姿勢の異常に注意し、次年度の検査で特に慎重なチェックを要する者	下記「1a：次年度再検査」の取り扱いについて参照
1b	治療継続 (経過観察)	既に医療管理下にて経過観察・治療を継続している者	紹介状を保護者に配布し、管理している医療機関での受診をすすめる
2	要精密検査	専門医療機関（整形外科）による更に詳しい検査を要する者	紹介状を保護者に配布し、専門医療機関での受診をすすめる

※すでに医療管理下にある児童・生徒につきましては、判定に関わらず主治医の指示にしたがって観察・治療を行ってください。

「1a：次年度再検査」の取り扱いについて

問題となるのは、^{*注1}構築性側弯症（脊柱のねじれを伴う）の発見ですが、^{*注2}一次検診の段階で、機能的側弯症（脊柱のねじれを伴わない一時的なもの）と構築性側弯症の判断が難しいことがあります。このような場合、1年後の経過をみて判断する必要があるため「1a：次年度再検査」という判定になります。

次年度の検診まで日常生活に制限はありませんが側弯症の進行は個人差があるため、水泳時や入浴時に背骨の状態を月に1回程度観察する必要があります。

明らかな背骨の変形が見られる場合は、次年度の検診を待たずに医療機関への受診をおすすめします。また、スポーツ等による筋肉の左右差など病的な脊柱の変形がない場合もありますのでご理解ください。

*注1 脊柱のねじれを伴い自然に治癒・改善することのない側弯

*注2 姿勢、下肢長差、股関節異常、心因性など原因を取り除くことで改善、もしくは消失する一時的な側弯

◆ 側弯症を早期に発見するにはどのようにすればよいか…

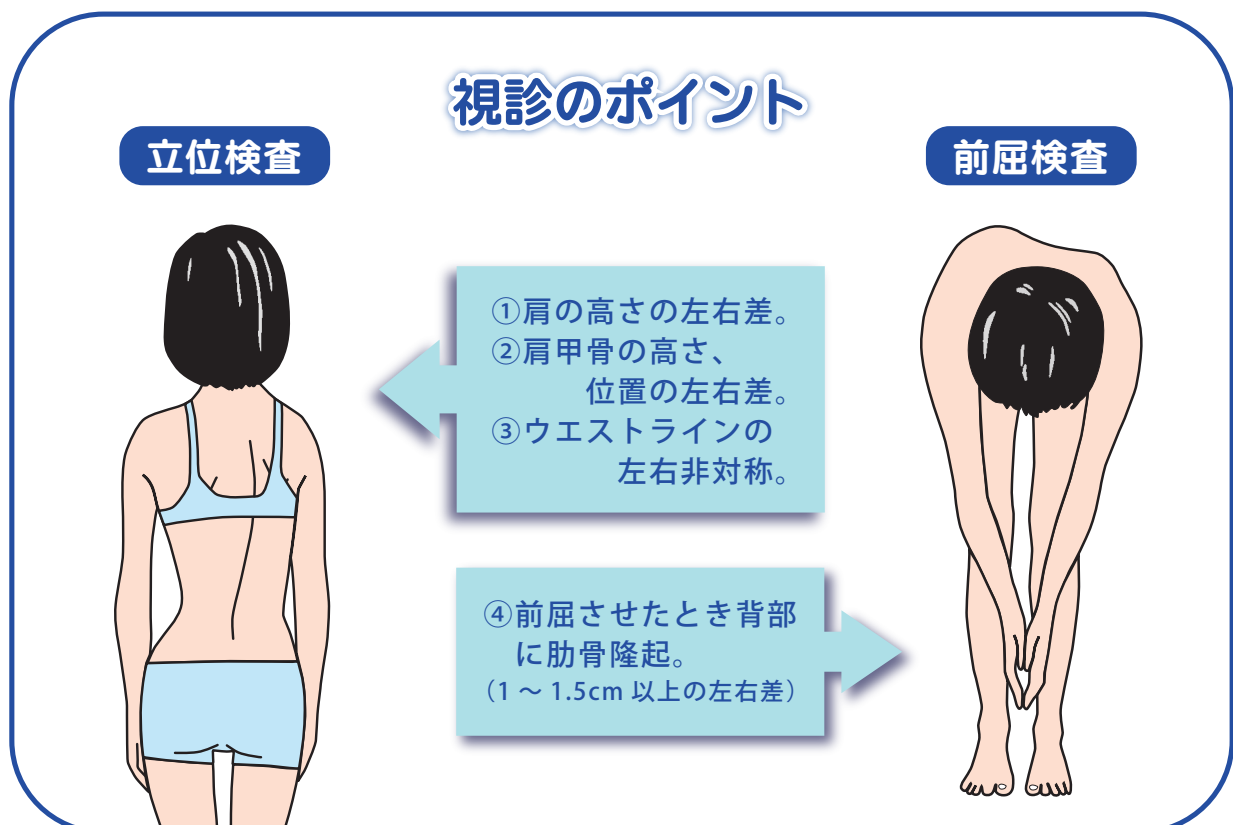
現在、側弯症（特発性側弯症）の発症を予防することはできません。また、痛みなどの自覚症状がほとんどないため気付いた時にはかなり進行していることも少なくありません。最も大切なことは早期に発見し、経過観察、進行しないうちに正しい治療を始めることです。そのためには、学校検診で脊柱の状態を医師の視診や検査（脊柱側弯検診）で確認することが重要です。進行のスピードは個人差があります（背の伸びる思春期に急速に進行するものもある）ので、普段から学校・家庭でも児童の脊柱の状態を観察することが大切です。

※ マッサージや整体は側弯症の治療に有効であるとの医学的根拠は認められていません。

◆ 簡易的にできる脊柱のチェック方法を紹介します。

検査者は、被検者の正面あるいは背面に位置し、被検者の背面を見通すように視診・触診で確かめます。また、前屈検査を行う際には、検査者はイスに腰を掛けて行います。なお、被検者の上半身を裸にして検査することが重要です。（女子の場合はブラジャー着用可）

前屈検査は手のひらを合わせ、肩の力をぬき両腕を自然に前にたらし、膝を伸ばしたままゆっくりとおじぎさせます。



■ けんさ前のじゅんび



- ・ 上半身は体そう着 1 枚
(はだ着・ブラジャーを外す)
- ・ 下はハーフパンツ
- ・ ポケットは空にするから
- ・ はだし
- ・ 長いかみの毛は後ろに
1 本結びまたは団子結び

■ けんさの受け方

- けんさ室に入ったら、上の服をぬぎます。
持っているバスタオルを着ます。
- ハーフパンツのひもをゆるめます。
- 出席番号順に並びます。なら
- 「次の方」と呼ばれたら中に入ります。名前をはっきりと教えてください。
- けんさ台の「足がた」に合わせて立ちます。
- けんさの先生がハーフパンツを腰あたりまで下げます。しせい
けんさの先生が姿勢を直します。
- 写真をとります。じっとしててください。
終わったら次の人と交代です。

